

児童発達支援事業所評価における評価結果（公表）

公表：令和6年 3月 1日 事業所名 時のひかり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>しきりなどを活用し、職員の目が届くように工夫している。</li> <li>分割して広く使えるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用児の状況や特性に応じて、レイアウト、活動場所など適宜検討しながらベビーガード等の設置をすすめている。</li> <li>今後、児発のお子さんが増えた時の対応は必要と考える。</li> </ul>
	②	職員の配置数は適切である	4	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用人数に対してドライバーや他事業所のスタッフにも協力してもらっている。</li> <li>人員基準以上の配置を行っている。</li> </ul>	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段使っている、または気に入っているおもちゃを本人が取り出しやすいように配置している。</li> <li>視覚支援を用いながらルーム分けや立ち入り禁止区域を設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配置がなされているが通路に関して狭い箇所があり、バギーや電動車いすが通るところがぎりぎりになる。ロッカー等の設置を動線を遮らないようにし、空間を広く使えるようにしていく。</li> </ul>
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動に合わせてテーブルやいすを使用したり、動きやすいように空間を作っている。</li> <li>衛生面に配慮しながら整理整頓を心掛け、活動に合わせてレイアウトを工夫しながら進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期休みの際には人数が倍となるため、外出や別室の使用なども取り入れ、安全に過ごせる空間を確保していく。</li> </ul>
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員間で目標を持ち、業務にあたっていると感ずる。</li> <li>毎朝の朝礼時にミーティングを実施したり、必要に応じて業務改善のミーティングを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の取り組みや方針等の共有を密に行い、保護者にも伝えていけるように工夫していく。</li> </ul>
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向を把握し、業務改善につなげている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>常々保護者の意向は把握し、情報共有を行っている。</li> <li>令和4年度実施し、結果を振り返り事業所で検討。今年度改善に取り組んでいる。</li> </ul>	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所としての自己評価、ホームページでの公表を行っている。</li> </ul>	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々業務改善を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度実施予定である。</li> </ul>
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>月2回の内部研修を実施している。</li> <li>内部研修への参加、それぞれ分担して外部研修へも参加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間を取り、もっと多く研修参加し、皆で共有する時間を設けるとよい。</li> </ul>
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的アセスメントに加え、月1回経過をまとめ共有している。</li> <li>利用児、保護者へアセスメントを実施しニーズの整理表に分析結果を表し作成している。</li> </ul>	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>アセスメントシート2種類とニーズ整理シートを使用している。</li> </ul>	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>アセスメント実施の結果、それぞれの利用児、保護者の意向や考えをもとに必要な支援を組み立てて内容を設定している。</li> </ul>	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画案の時点で検討会議を実施、その後も定期的に振り返り、ミーティングを行っている。</li> </ul>	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>各専門職で協力し、交代で立案し、共有している。</li> <li>週案をそれぞれの担当者が立案して、チームで検討。進め方もしっかりと理解したうえで進めていく。</li> </ul>	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタッフ間で案を出して検討を行っている。</li> <li>季節や行事を取り入れてプログラムを工夫している。</li> <li>その週が終わるごとにプログラムの状況を振り返ることを実施、常に変化をしながら工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えが偏らないようにしていきたい。</li> </ul>

関係機関や保護者との連携	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員で取り組めるプログラム、個別性の高いプログラムを実施している。</li> <li>・それぞれの状態に合わせて目標を設定、個別の中で実施すること、集団の中で実施することを組み合わせる作成している。</li> </ul>		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼にて分担を確認し、ボード等で視覚化している。</li> <li>・朝礼時、また適宜にその日のプログラム、流れを打合せしている。集団での内容、個別での内容、それぞれの役割を確認、把握している。</li> </ul>	・時間がなく、できない日は前日に実施している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼時、また適宜その前日のプログラムの状況や終了後の振り返りを行っている。週に一度、総括的な振り返りを行っている。</li> </ul>	・職員が夕方には集まらないため、その日には行っていない。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフト内に利用ごとに記録を記載。これをもとに検証を行い1か月に1回報告書を作成している。</li> </ul>		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングを少なくとも6か月に1回は実施している。そこで目標の到達度を測り、検証をしている。</li> </ul>		
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に管理者、児発管が出席しているが、必要に応じてそれぞれの専門職が出席している。</li> </ul>		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達相談支援センター、基幹相談支援センターと連携を図り、支援を行っている。</li> </ul>		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれ関係している方たちや機関、組織等と連絡、連携、協力しながら支援を行っている。</li> </ul>		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主治医より通所に必要な診療情報提供書(嘱託医へ)、指示書をいただき連携体制を整えている。また、嘱託医へも定期的に報告している。</li> </ul>		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者会議に参加している。</li> <li>・移行支援について、いまだ実施はないが、今後必要な利用児さんがいることを含め準備している。</li> </ul>		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者会議に参加している。</li> <li>・移行支援について、いまだ実施はないが、今後必要な利用児さんがいることを含め準備している。</li> </ul>		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学の機会を設けて情報支援を行っている。来年度は本格的に連携を強めていく。</li> </ul>		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在のところ今後の計画だけであるが、隣接の保育園と交流していきたい。近くともに活動を行っていこうとしている保育園がある。また、児童館も積極的に活用していきたい。</li> </ul>	
	29	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在参加はしていない。今後参加をしていく。</li> </ul>	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎時や連絡帳、必要時に管理者からの連絡を行い、報告、話題の整理、共通理解を図っている</li> </ul>		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎時に保護者からの相談があった際は行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアレントトレーニングの形式、内容ともに十分に行えていない。だが、障害特性の理解や理解状況の調整については随時お伝えしている。</li> </ul>	
	保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約時はもちろん、「何度でも説明させていただく」旨を伝えている。</li> </ul>	
		33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントや聞き取りを行い、目標やニーズを設定。相談支援専門員のサービスの利用計画を踏まえて支援プログラムを立案、本内容を説明して同意を得られてからプログラムを開始している。</li> </ul>	
		34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話をしっかり傾聴して一つの方法のみならず様々な方法や選択肢をお伝えしている。</li> </ul>	

	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	0	・年に2回の保護者会を開催している。出席しやすいよう、イベントと同日で実施するなどの工夫をしている。	
	③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	・直接の相談、電話での相談、送迎時、連絡帳、保護者会などの時に相談や申し入れを聞く機会を設けている。また昨今は迅速に対応できるように心掛けている。	
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	・毎月新聞を発行し、定期的にホームページも更新している。その中で活動概要や行事予定、必要な連絡事を記載して発信している。	
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	5	0	・ファイルごとにまとめて鍵付きの書庫に保管している。	
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	・言葉や視覚支援、ジェスチャーなど「伝わる」方法で伝達するよう心掛けている。	
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2	・時のかけはしと共同でレクリエーションを開催している。	・コロナ禍以前までは地域交流を盛んに行っていたが、現在は様子を見ている状況。
非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	0	・マニュアルを設定し、説明と周知を行っている。また必要な研修を実施している。	
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	・年に2回訓練を行っている。	
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	1	・必要な情報は聞き取りやアセスメント、相談支援専門員からの情報と医療機関から情報を得ている。	・情報収集として予防接種の項目を聞いて行ってもいいと思った。
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0	・医師の指示書、保護者の確認を踏まえて対応している。	
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	・ヒヤリハットの事例が出た場合、報告書をもとに検討し、多角的に対応を話し合い、ファイルにまとめている。	
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	1	・年に2回研修を実施している。	
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	0	・身体拘束の例外3原則を踏まえて、実施する際の規定を定めている。現在実施した実績はなし。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。